

国家戦略特区ワーキンググループ ヒアリング（議事要旨）

（開催要領）

- 1 日時 平成27年10月8日（木）15:35～15:52
- 2 場所 永田町合同庁舎7階特別会議室
- 3 出席

<WG委員>

- | | | |
|----|-------|-------------------------------|
| 座長 | 八田 達夫 | アジア成長研究所所長 大阪大学社会経済研究所招聘教授 |
| 委員 | 鈴木 亘 | 学習院大学経済学部経済学科教授 |
| 委員 | 原 英史 | 株式会社政策工房代表取締役社長 |
| 委員 | 本間 正義 | 東京大学大学院農学生命科学研究科教授 |

<関係省庁>

- | | |
|-------|-------------------|
| 根岸 功 | 法務省入国管理局総務課企画室長 |
| 伊藤 純史 | 法務省入国管理局総務課企画室補佐官 |

<事務局>

- | | |
|-------|---------------|
| 佐々木 基 | 内閣府地方創生推進室長 |
| 川上 尚貴 | 内閣府地方創生推進室長代理 |
| 藤原 豊 | 内閣府地方創生推進室次長 |

（議事次第）

- 1 開会
- 2 議事 入管業務の地方・民間への移管について
- 3 閉会

○根岸企画室長 この前、目標をはっきりということがありまして、目標については若干口頭では申し上げましたが、最小待ち時間を20分以下ということがアクションプログラムで決められております。

現状ですけれども、資料1に主要空港のものを載せておりますが、いずれもまだ20分には達していない状況でございます。したがって、前回申し上げた体制整備とともに、新しい施策も採って行って、これを短くしていきたいということでございます。

今までも取組はやってきていますけれども、現状の体制がどうなっているのかという御指摘がございましたので、それを用意しているのが別紙2でございます。

別紙2に、入管の職員のうち入国審査官のみを抜き出した配置定員の表を載せています。

何々入国管理局と書いてあるのがブロック機関で、そのこの本局とって、その局自身でも業務をやっています。そこがメインになりますけれども、本局のほかに出張所があります。少し抜き出ているのが支局という単位のものでございます。今回の出入国という観点で言うと、例えば、成田空港支局、羽田空港支局、中部空港、関西空港、こういう支局ですとか、あるいは何々空港と書いてある出張所、仙台空港出張所、広島空港出張所とか、空港名が書いてありませんが、千歳苫小牧出張所もこれは千歳空港出張所みたいなものです。こういうところは、ほぼ全員が空港審査の要員と考えていただいて結構です。

そのほかのところについては、例えば、何々港と港が付いているところであっても、博多港などは本当の港の空港出張所みたいな形で、審査のブースがあるようなところですので、小さい地方空港より立派な施設ですけれども、ほかは何々港と書いてあっても港に所在しているだけで、港の業務をやれば、いわゆる在留審査、本局がやるような日本に既にいらっしゃる方の業務についても併せてやっているということで、この中から出入国だけの要員を完全に切り分けるのはなかなか困難であります。大体このような配置になってございます。

これについて、併せてブースコンシェルジュなどの配置というものも指摘がありましたので、配置している空港等について別紙3でまとめております。

これは何人を直接雇いますという形ではないので、瞬間的にいるというのは、我々としてはなるべく混んでいる時間にいてもらうのですけれども、やはり混んでいる時間の配置は職員は難しいだろうから民間へ、というお話もありましたが、民間委託しても相手が生身の人間ですので、この1時間だけ来て、あと5時間休んで、2時間だけとか、なかなか難しい面がございまして、いる人数はその時間帯によって若干前後しますけれども、ここに記載したような人数が配置されています。

併せて記載しておりますけれども、そこに書いてある、例えば、花巻空港とか新潟空港、11、12、13あたりのところなどは、ブースコンシェルジュは置いていませんけれども、自治体の協力をいただいているところがあります。富山空港みたいに航空会社に案内整理の協力をいただいている。こういうところもございます。長崎、大分みたいにブースコンシェルジュも我々として置いているし、航空会社などの協力もあるという望ましい形態のところもございます。前に指摘のありました那覇については、大体1～2人ぐらいはいる状態ということになってはいますが、まだ自治体の協力までは至っていないということもございまして。

我々としては、この前御説明したうち、特に来年度に向けて大きなものとしては、前回御説明したバイオカートが民間委託の推進とここで言われている趣旨にも合致すると思えますし、施設が限られている中でいかに速やかにやるかという観点で言うと、今はどちらかと言うと、審査ブースが余っているのに入る職員がいなくて困っているというよりは、施設がいっぱいで困っている状況が起きていますので、そうすると、流れそのものを良くしなければいけないという観点で言うと、こういうバイオカートみたいな形で、審査の一

部を待っている間にやってしまうことによって流れを良くするということができれば非常にスピーディーになるのではないかと考えています。このバイオカートについては、1人当たりの審査時間というのがまちまちですので、正確にはできないのですが、一応色々実測してみましたところ、最大で30%ぐらい1人当たりの審査時間は短縮できるのではないかと考えていますので、一番長い最長待ち時間が発生している時間は常に審査をやり続けているわけですから、その流れが3割ほど早くなるということになると思っていますので、非常に効果があるのではないかと。しかもそれは審査官の増員に頼らないでやる形ということでは非常に意味があるのではないかと考えております。

表の説明紙の中の2ページ目の2で書いております民間委託についてということで、前回八田先生から御指摘がありました、やり方の検討をするのにシンクタンクなどをうまく使ったらどうかということで、私の記憶の中で、あのとき少しだけお話をしたのですが、平成23年度から24年度にかけて、2年間かけてやった委託調査だったのですが、あの当時、2,500万人という目標を政府として掲げておりました、そういう時代になったときにどういう審査のあり方でやればいいのか。ただ単に何倍の増員というのではなくて、それだと施設上も入らないでしょうし、どういう形がいいのかということで、民間のシンクタンクに委託をして、調査研究を行っていただいています。海外事例を調べたり、新しい技術を調査したり、待ち時間の状況、人の流れなども見ていただいて、そこを単にシンクタンクの見解だけではあれですので、各界の有識者の皆さんの有識者会議を作って、そこでその結果も踏まえて、調査結果だけではないですが、御議論いただきまして、それが最終的に出入国管理政策懇談会というところの報告書としてまとめられております。

それを踏まえて、前回御説明した中で言うと、顔認証技術を活用した日本人自動化ゲート。これは報告書の中でもかなりの目玉施策でありました。あるいはトラステイド・トラベラーの自動化ゲートの利用、クルーズ船審査の合理化みたいなところについては、これらも踏まえたものということが言える。それをその後検討してきて、だんだん実現に向かってきたものということでございます。

どこもそうではありますが、なかなか予算事情が厳しい、自由になるお金が少ない役所ですので、こういう研究費みたいなものをたくさん使えることはめったにないのですが、もしチャンスがあればまたそういうことはやっていきたいと思っております。いずれにしても、有識者会議みたいなことは常時やっておりますので、そういうところでも民間の知見をいただいて、この有識者会議のほかにも、今回実現に当たって顔認証の自動化ゲートを本当に予算要求する。実現させるということを決めるときも、一旦また今度は民間の方に集まっていただいて、これはもうちょっとアドホックな会議として集まっていただいて、検討していただいて、これなら使えるのではないかと。これをいただいて要求に至っていますので、いずれにしても、今後とも外部の意見を取り入れながらやっていきたいと思っております。

駆け足ですけれども、冒頭は以上でございます。

○八田座長 どうもありがとうございました。

○原委員 最後のブース開設状況の紙で、これは時間ごとに入って来られる人の数を出していただいていますけれども、これにそれぞれ対応する人員体制はどうなっているのか。もう時間がないので、今度でも結構ですので、また教えていただければと思います。

○根岸企画室長 左側の審査ブース開設数というものがそれに当たります。

○原委員 人員体制は。

○根岸企画室長 ブースを開けているということは、人が入っているということなのです。

○原委員 これは人の数と全くマッチするわけですね。

○根岸企画室長 そうです。

○原委員 そうすると、これは明らかにずれているわけですね。

○根岸企画室長 概ね合っているのですが、常にぴったりの時間で集められるかということ、そうではない場合というのがあります。

○原委員 わかりました。これは開設されている中で、人員は非常勤で雇われている人が相当程度いるということですか。

○根岸企画室長 これは基本的には入国審査官です。

○原委員 これは定員で雇われている人ですか。

○根岸企画室長 そうです。

○原委員 それはどうやるとこうやって時間によってこれだけ差が作られるのですか。

○根岸企画室長 1日の中で普通の管理室勤務の9時～5時みたいな勤務の人は空港だとほとんどいません。総務課みたいなところにいる人以外はいませんので、その中でシフトを組んでやっています。そのシフトの組み方は何段階もあって、1種類ではとても表せないのですけれども、その空港に応じて混んでいる時間に色々な時間帯の班がダブるような構成にして作っていているということです。さらにその中でも、例えば、人間ですから食事を取ったりしなければいけないし、本来きちんと必要な休憩は休ませないといけない。けれども、空港ですので、飛行機はダイヤはありますが、予定通りに入ってきませんので、それに合わせてこっちからあっちにやったり、あるいはこれは成田の第1ターミナルの南側で取ったのですけれども、ここにいないはずの職員を、こっちが今混みそうだとしたら、こっちが遅れている、ではこの間はこの3便に集中してしまうねとなると、あちは混んでいるか。混んでいるけれども、すごくはない。では、1人こっちに回してとかというようなことをやってやりくりをしているということです。

○原委員 これはまた後で結構ですけれども、成田の場合よりも、もっと規模の小さいところだと、よりそういったシフトでの対応が難しくなったりということはおそらくありますね。

○根岸企画室長 小さいところはむしろ入る便に合わせていく。空港出張所がないような、いわゆる地方空港の小さいところは週に何便かしか入りませんので、入管職員がずっと張

り付いている意味がないわけです。ですので、近隣の県庁所在地とかに出張所があって、通常は在留審査などをやっていて、空港に飛行機が入るときにその便に合わせて出張して行って、審査をやって、終わったら帰ってくるという形です。

○原委員 そうすると、その方々はほかの仕事をされる時間もあるわけですね。

○根岸企画室長 そうです。地方空港はそうです。

○原委員 成田以外の、全部というわけにはいかないのかもしれないですけども、できる限りまた教えていただければと思います。

申し上げたいのは、私はずっと法務省の応援をしているつもりなのですが、これだけどんどん観光客、外国人の入ってくる人たちが増えて、繁忙の差が非常に時間的なもの、季節的なものを含めてあるという状況であり、また色々な国の人が入ってきたり、増えたり減ったりというのが見込まれる中で、おそらく固定的に定員を増やすやり方は、一つのやり方としてあるのしょうけれども、より柔軟な勤務体制で人を使える仕組みをもっと入れられてもいいのではないかと。

○八田座長 要するに、例えば、退職者を午後1時から4時まで雇えば、シフトの組み方が随分楽になるでしょうという話ですね。

○根岸企画室長 前回申し上げたとおり、この何時間だけ来てくださいというので応じてくれる人というのはほとんどいません。

○八田座長 退職者はみんなそうですよ。タクシーの運転手などは、退職すると短い時間でできるから嬉しいというのですよ。

○根岸企画室長 我々は全て希望を取っておりますけれども、現実はそうではないです。給料が何倍も良ければまた別かもしれないですが。

○八田座長 年金と一緒に取れるからすごくありがたいという人はすごく多いです。1日中ではきついけれどもと。

○根岸企画室長 今やっている再任用も、短時間勤務というのがあるのです。それで入っている方もいるのですが。

○八田座長 要するに、もっと65歳以上のことも考えているのだと思いますけれども、色々なことを考えて、割と予算も獲得しやすいのではないかとという話ですね。

○原委員 それでこの間から駐車の禁止の事例などを申し上げているわけです。

それからもう一つだけ、先ほどのクールジャパンの話の四つ目に入っていましたけれども、不法就労に関しての体制で、架空の会社などを作っての不法在留というところについては、厚労省の届出とセットにして相当対処されたというのは理解したのですが、言っていたものと、申請したものと違う働かせ方をしたり、そういったところの問題についてというのは、おそらくブラック企業対策などと同じようなところがあって、今、厚労省はまさにブラック企業対策で相当体制を強化したりされているわけですが、それと比べると、やはり東京で専従職員が30人とか、その体制は圧倒的に弱いのではないかと。そこも民間の委託、あるいは別の仕組みも含めてより強化していく余地があるのではないかと。

いますので、これも応援のつもりです。

○八田座長 道の駅の時間がなくなってきてしまったので。

鈴木委員、どうぞ。

○鈴木委員 資料要求だけ。別紙1の時間がありますね。これの過去のものが見たいので、過去10年か20年ぐらいを見たいというのが一つ。

○根岸企画室長 そこまで前は保存していないかもしれません。

○鈴木委員 10年ぐらいで結構です。これだけニーズが増える前のものから見たいということが一つ。もう一つは、毎日集計したものの平均を取っていますけれども、それぞれのばらつきを見たいのです。これは平均を取られてしまっているので、マックスがどれぐらいかということと、最小はどれぐらいなのか。どれぐらいばらついているのか時間を見たいので。日によってはものすごく長いのかどうかを見たいので。

○根岸企画室長 例えば、ある1カ月の毎日の最長時間を出してみても、この平均がこれですという、これの基のデータでよろしいでしょうか。

○鈴木委員 毎日の最長時間がどれぐらいばらついているのかを見たい。

○根岸企画室長 1日の中のゼロ分の時間も1分の時間もありませんということではなくて、どこかの1カ月ぐらいということでしょうか。

○鈴木委員 その1日のゼロはカウントしていないわけですね。その日のマックスだけということでしょうか。

○根岸企画室長 そうです。

○鈴木委員 その日のマックスがどれぐらいばらつきがあるかを見たい。

○根岸企画室長 いつも20何分の日が大体あるのか、10分の日もあるのに長い日があるせいで平均がこうなっているのかということでしょうか。

○鈴木委員 そうです。

○藤原次長 資料のほうをお願いします。

○八田座長 それでは、いつもお忙しいところお願いしてあれですが、応援団なので、よろしくをお願いします。

どうもありがとうございました。